

劇画の誕生とその変遷

菅野 雅貴

【要旨】

劇画という概念はどのように変化してきたのか。作品についての評論や劇画が生まれた貸本漫画という媒体、漫画史における劇画の位置づけについて研究された例は存在したが、劇画そのものがどのような変化をしてきたかについての研究は詳しく行われていない。

本研究では劇画の誕生から現在に至るまで、劇画という概念はどのような変化をしてきたのか明らかにする。劇画に関わりの深い作家の作品と証言、先行研究をもとに劇画の変化について調査を行った。劇画は、辰巳ヨシヒロが描いた「新しい漫画」と従来の漫画を区別するために産まれた。それが世間に劇画をアピールする際に青年向けの作品を指す概念になり、現在では描線の多いリアルタッチの画風で描かれた作品を指す言葉になった。劇画という概念が変化してきた原因は、誕生した時から異なる認識のもと共通した概念が存在しなかったためだとし、今後も劇画という概念は変化する可能性がある結論付ける。

【講評】

作家が自由に創作活動を行える貸本漫画の中で、従来の漫画とは異なる新しい創作物として戦後、劇画は誕生した。主な読者層は当初の青年労働者から大学生に代わった。1970年代に学生運動が沈静化するにつれて趣味嗜好が変化し、日本の劇画ブームは終焉を迎え現在に至っているが、近年、海外で評価が高まり、辰巳ヨシヒロの劇画が注目を集めている。作者の意図や作風のみならず、時代背景にも着目し劇画概念の変遷を書き出そうとした点は、評価に値する。一方で商学部の学位授与方針(DP)によれば、卒業論文では、ビジネスに関連する課題に取り組むのが基本であり、本稿は必ずしも商学部のDPにそうものではない、という意見もあった。